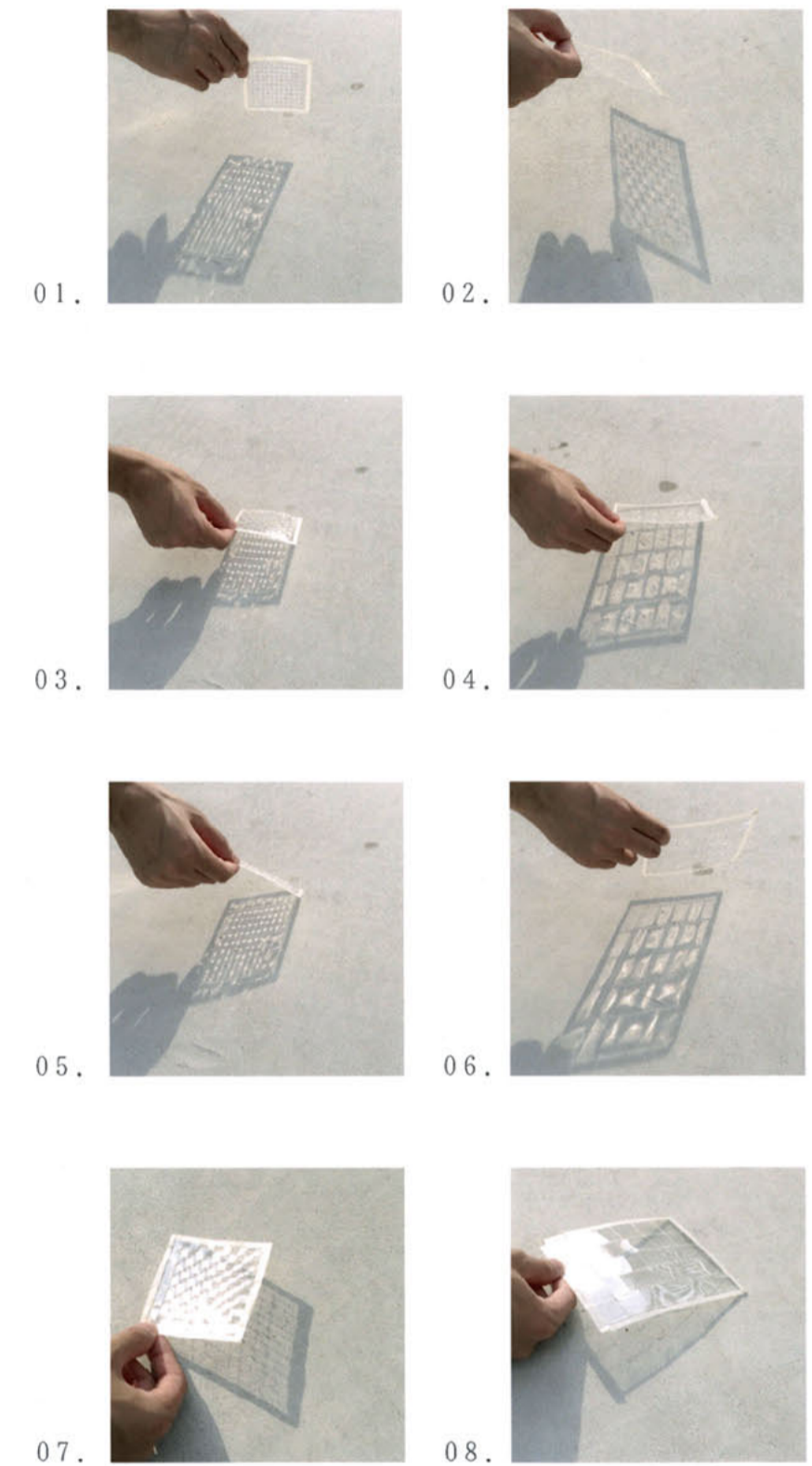




03. 光と影のスタディ過程

0.2mm厚のアクリル板を編みこんだもので影の落ち方をスタディした。編みこまれるガラスは複雑な光の反射をし、木漏れ日のような影の様相を生み出す。



在り 触 れ る ガ ラ ス

— the feel of glass material —

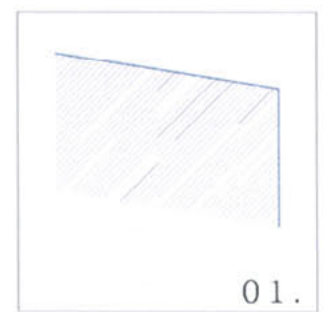
衣服のように柔らかく質感を持ち、人とガラスの間で対話が生まれるような“あたたかみを持つ建築”を考える。短冊状に割いた薄板ガラスを編み込むことで1枚の布のような状態のガラスを作り、堅さと柔らかさを共存させる。それは人に触られることで自由にかたちを変え、光や風に対して豊かに呼応することで新しい環境との柔軟な関係を生み出してゆく。

01. 布のようにガラスを編む

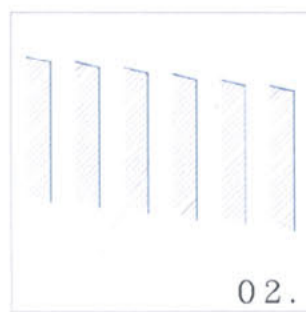


厚さ0.2mm以下である超薄板ガラス<G-Leaf®>

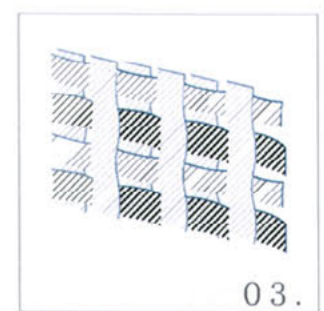
- 01. 曲げれる薄板ガラス
- 02. 12mmずつ短冊状に割く
- 03. 布のように織り込む
- 04. 二層ダブルスキンで構成



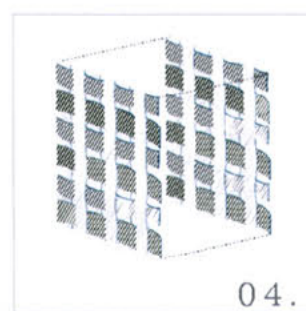
01.



02.



03.

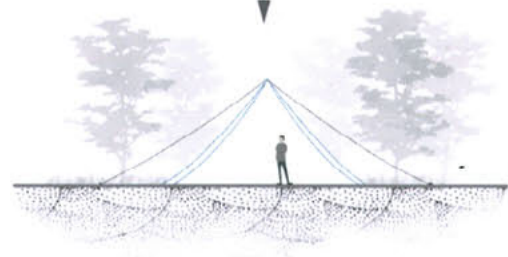
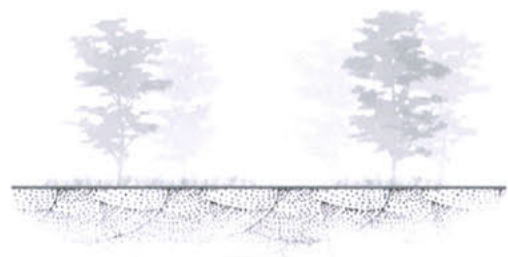


04.

02. あたたかみのあるガラスとの関係

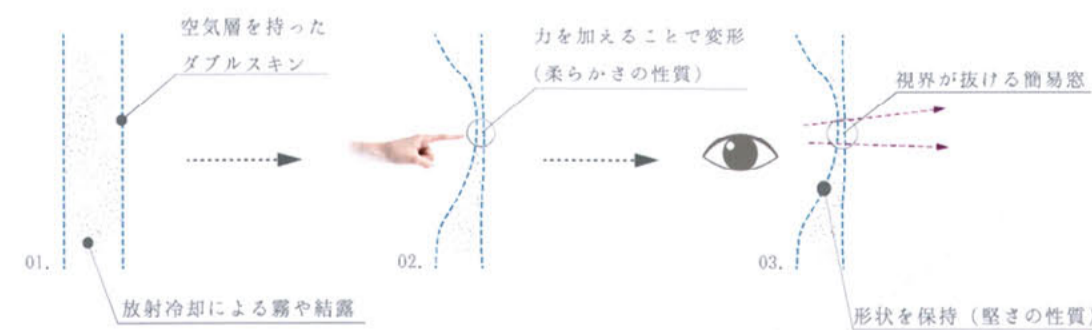
Construction.....

二層の布ガラスをワイヤーなどのテンション材を用いてテントのように仮設的に建てる事が可能。



Dialogue of material.....

堅さと柔らかさが共存した布ガラスは人に触られることで自由に形状を変え、人の動きに合わせた自由な空間づくりを可能にする。



Rich response of nature..... (Section S=1:5.0)

従来の冷たく無機質な堅いガラスよりも布ガラスは豊かな環境への呼応をする。編みこまれることによって重なり合うガラスの層が木漏れ日のような光を落としたり、自然の風圧に対して少し形を変えたり、雨が滴り多孔質な表面に植物が蔓延り、やがてそこに生態系が宿るなど、従来のガラスでは生まれないような多様で柔軟な関係性を築く。

